

雪氷写真館③⑥ 南極へ飛ぶ



写真 1 . 2003 年 11 月 27 日 , 第 45 次南極地域観測隊員 6 名を乗せて南極ノボラザレフスカヤ基地滑走路に着陸したイリュージン 76 大型輸送機 . (本山秀明撮影)



写真 2 . 2003 年 11 月 30 日 , ドームふじ観測拠点から北に 430 km 離れた ARP1 着陸した双発航空機ドルニエ Polar-4 . (中野 啓 撮影)

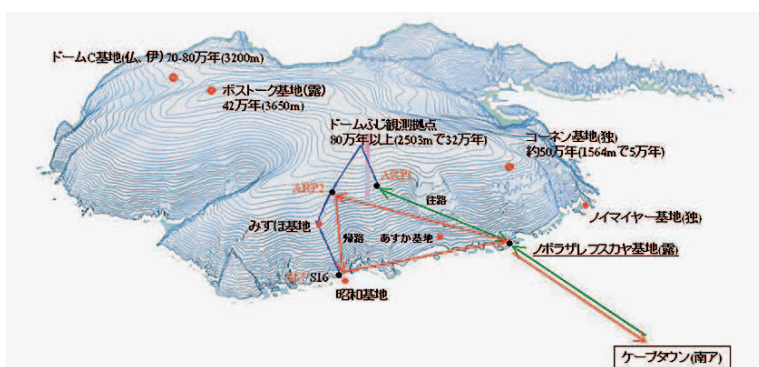


写真 3 . ドームふじ観測拠点への航空機による人員派遣計画・飛行経路 .
 ケープタウン～ノボラザレフスカヤはイリュージン 76 , ノボラザレフスカヤから
 APR1 および APR2 へはドルニエ機 , さらに内陸のドーム基地へは雪上車となる .



写真4. 2003年12月5日, ドームふじ観測拠点にて44次ドームふじ越冬隊8名と合流した45次隊5名(夏隊4名, 越冬隊1名).(中野 啓撮影)

南極へ飛ぶ

日本の南極地域観測隊はこれまで必ず船で昭和基地へ向かってきたが, 2003年, 第45次南極地域観測隊のドーム基地掘削を目的とするチームは, 初めて船を使わずに飛行機で内陸入りするオペレーションに成功した。

日本を2003年11月24日, 日本を発った本山ほかドーム掘削チーム6名は, 商用航空機で南アフリカ・ケープタウンへ向かい, 11月27日, イリュージン76大型輸送機で6時間半の洋上飛行の後, 南極ノボラザレフスカヤ基地滑走路に着陸した(写真1)。この飛行機はドロンニングモードランド航空網(Dronning Maud Land Air Network: DROMLAN)に参加する国々(日本を含む11カ国)で運行されている。

11月30日, 後方支援の古川晶雄隊員をノボラザレフスカヤ基地に残し, 掘削チーム5名は, ドイツのアルフレッド・ウェゲナー研究所の双発航空機ドルニエPolar-4により, ドームふじ観測拠点から北に430 km離れたARP1(内陸航空拠点1, 南緯 $73^{\circ}44.252'$, 東経 $35^{\circ}00.105'$, 標高3050 m)へ着陸した(写真2)。飛行経路は写真3に示す通りである。

ARP1では, あらかじめ44次ドーム越冬隊の航空支援隊が滑走路整備をして待ち受けており, ここからは雪上車でドーム基地へ向かい, 2003年12月5日にドーム基地へ到着することができた(写真4)。日本を発って足かけ11日かけての到着。これまでの日本を出てから片道1月半, 往復3ヶ月かけての所要時間と較べると飛躍的進歩である。

掘削作業を終えたチームは, 昭和基地で越冬する田中洋一隊員以外は, 1月末にARP2およびS16(写真3)経由の飛行ルートで帰国する予定である。

本山秀明 会員(国立極地研究所)